

京都大学文学研究科 修士課程修了生アンケート 集計結果

平成 30 年 3 月実施

京都大学文学部・文学研究科では、卒業時・修了時にアンケートを実施し、教育研究活動の自己点検・評価に役立てるとともに、その集計結果を公開しています。平成 29 年度の修士課程修了生の皆さん、ご協力ありがとうございました。

【結果の概評】

今年度は修了生 89 名に対して、80 名より回答を得ることができ、回答率は 89.9%に達した。

多くの設問では回答傾向は例年と大きくは変わらない。(Q.04)「京都大学は「自由の学風」を伝統とし、「自学自習」を基本的な理念としています。これに関連して、あなたは文学部での授業について、どのように考えますか？」については、88.8%の方が、自学自習の能力が「充分」または「ある程度」養われるような形で行われていると回答している。また、(Q.07)「文学研究科で学んだこと、身につけたことで、今後役立つと考えられるものを挙げてください。」では、「C. 自分で問題を発見し、解決を図る能力」を挙げており、最も多かった。これらは、本研究科の教育の特長をよく表している。

また、(Q.05)「あなたは文学研究科で学んだことに満足していますか？」では、97.5%の方が「充分」または「それなり」に「満足している」と回答しており、昨年度同様、本研究科の教育に対する満足度の高さが窺われる。

さらに、文学部のディプロマ・ポリシーの達成状況について尋ねたところ (Q.09-12)、「達成できた」・「ある程度達成できた」を合わせると、(Q.09)「それぞれの専門分野において、高度な知識に基づく研究能力と、高度な専門性を必要とする職業に従事する能力を身につけている」が 68.8%、(Q.10)「それぞれの専門分野において、原典や一次資料の分析に基づいてオリジナリティを有する研究を進める能力を身につけている」が 80.0%、(Q.11)「専門家としての責任感と倫理性をもって研究を遂行する能力を身につけている」が 82.5%と、達成状況が高いことを示しているが、(Q.12)「研究成果を世界に向けて発信するために必要なレベルの語学能力を身につけている」については 51.3%と約半数に留まっており、今後の教育に工夫が必要と思われる。

【自由記述欄】

(Q. 13)「その他意見・要望がありましたら、ご自由にお書きください。」

それほど多くの記述は見られないが、全体の傾向は学部卒業時のアンケートと同様で、修士課程修了生も、自由度の高さ、自主的な研究姿勢が身につくことを評価している一方で、自由土の高さや昨今の大学改革がもたらす弊害などについて批判的な意見もある。

個々の回答を以下に列挙する。

・私は学部時代はあまり勉学に打ち込んだ方ではありませんでしたが、3・4回生で卒論に取り組み始めたことで研究の面白さに気づき、進学を決めました。今の文学部のシステムでは1・2回生のうちはほとんど専門的な研究に触れる機会がなく、義務的に授業に参加して単位だけを揃えるという人も多く、せっかくこれほど恵まれた環境にいるのにもったいないと感じます。自主性を重んじるにせよ、研究に触れる機会はまだもう少し早くから設けてもいいのではないのでしょうか。

・自由の学風を掲げながら、学生の立て看板を撤去させてしまったり、事務方が授業の出席数のみこだわったりと、本質からずれた教育を行ってしまっている傾向を感じた。大学教育は、単に授業の提供に留まらないのではないか。また、そうしたリスクを忌避し、安易なルール化に流れる大学の姿勢を見ながら育った学生が、国内外で貢献する真のグローバルリーダーとなり得るかという、非常に疑問に感じている。

・少人数の研究室においては、研究室内の雑務が特定の個人に集中しやすくなります。結果、その学生は自身の研究活動とは関連の薄い作業に手間をとられ、重い負担を強いられるなか研究を行うこととなります。そして研究室内ではそれが当たり前のこととして認識され、問題視もされません。人の少なさから割に合わない負担を抱える学生は、少なからずいるのではないかと思います。

・他大学の学部から入学した学生に対し、京大のカリキュラム上いつ進学を希望したか尋ねるアンケートは無意味だと思いました。間違った情報を集めるアンケートを取っても意味がないのでは？

・文学部の研究が社会の実際的な問題においてはまったく何の役にも立たないことは解りきっているし、ディプロマポリシーとかいうお為ごかしも虚しいものだと思う。

・修士論文提出日をあと1週間ほど遅らせてもらえると楽だった。

・高校時代に、京都大学で学びたいと思ったが、親の反対で受験すらできなかった。その後別の大学を卒業し、就職や結婚したがいつか京都大学で勉強したいと思っていた。長年の憧れであった京都大学の大学院に入学することができ、高度な内容の授業を受けたり、博学な研究室の仲間と意見を交わしたりする学生生活を送れたことを、心よりありがたく思う。

アンケート名 平成29年度修士課程修了者アンケート

部局 文学研究科

対象者数 89

回答者数 80

回答率 89.9

結果 (Q.01) あなたの出身大学・学部等についてお聞きします。

A: 京都大学以外の日本国内の大学 (27票/33.8%)

B: 京都大学の他学部、研究科等 (0票/0%)

C: 京都大学文学部 (45票/56.3%)

D: 日本以外の大学 (8票/10%)

E: その他 (0票/0%)

F: 無回答 (0票/0%)



(Q.02) あなたが大学院へ進むことを決めたのはいつ頃でしたか？

A: 学部入学後 (23票/28.8%)

B: 系分属後 (2回生のとき) (4票/5%)

C: 専修分属後 (3回生のとき) (21票/26.3%)

D: 4回生になってから (23票/28.8%)

E: 大学卒業後、社会に出てから (6票/7.5%)

F: その他 (1票/1.3%)

G: 無回答 (2票/2.5%)



(Q.03) 進学動機の中で重要な位置を占めたのはどのような要因でしたか？ (複数回答可)

A: あなたが選んだ研究分野についてより深く学びたいと思った。 (61票/40.9%)

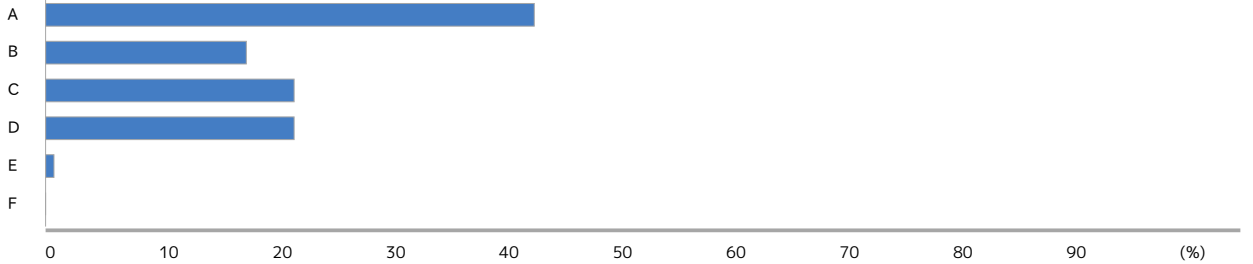
B: 大学院での研究・教育が思考力の向上に役立つと思った。 (25票/16.8%)

C: 将来、研究・教育職に就くことを希望していた。 (31票/20.8%)

D: 企業等に就職する前に、もう少し学問を続けたいと思った。 (31票/20.8%)

E: その他 (1票/0.7%)

F: 無回答 (0票/0%)



(Q.04) 京都大学は「自由の学風」を伝統とし、「自学自習」を基本的な理念としています。これに関連して、あなたは文学研究科での授業、研究指導について、どのように考えますか？

A: 自学自習の能力が十分に養われるような形で行われている。 (36票/45%)

B: 自学自習の能力がある程度養われるような形で行われている。 (35票/43.8%)

C: どちらとも言えない。 (7票/8.8%)

D: 自学自習の能力が養われるような形で行われていない。 (1票/1.3%)

E: その他 (1票/1.3%)

F: 無回答 (0票/0%)



(Q.05) あなたは文学研究科で学んだことに満足していますか？

A: 十分に満足している。 (40票/50%)

B: それなりに満足している。 (38票/47.5%)

C: どちらとも言えない。 (2票/2.5%)

D: 後悔している。 (0票/0%)

E: その他 (0票/0%)

F: 無回答 (0票/0%)

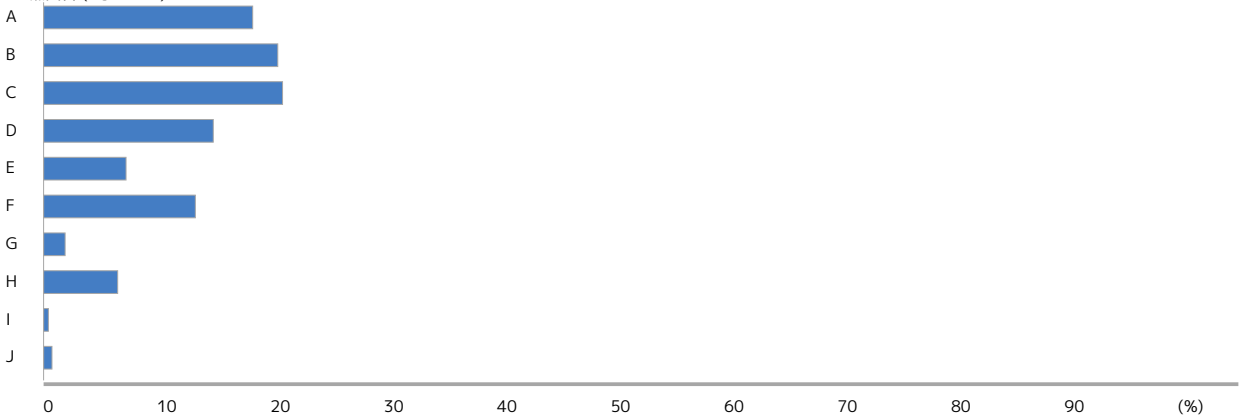


- (Q.06) 4月以降の進路についてお聞きします。
 A: 博士課程進学（他大学も含む）(29票/36.3%)
 B: 博士課程進学の準備 (5票/6.3%)
 C: 一般企業に就職 (29票/36.3%)
 D: 官庁、地方自治体等に就職 (6票/7.5%)
 E: 教員、司書等の専門職に就職 (3票/3.8%)
 F: その他 (1票/1.3%)
 G: 無回答 (7票/8.8%)



(Q.07) 文学研究科で学んだこと、身につけたことで、今後役立つと考えられるものを挙げてください。（複数回答可）

- A: 専門的知識 (48票/17.5%)
 B: 専門分野の研究能力 (54票/19.6%)
 C: 自分で問題を発見し、解決を図る能力 (55票/20%)
 D: 一般的な教養 (39票/14.2%)
 E: 国際感覚 (19票/6.9%)
 F: 外国語の能力 (35票/12.7%)
 G: リーダーシップ (5票/1.8%)
 H: 社会的常識 (17票/6.2%)
 I: その他 (1票/0.4%)
 J: 無回答 (2票/0.7%)



(Q.08) 差し支えなければ、あなたが属していた専攻を教えてください。

- A: 東洋文献文化学 (15票/18.8%)
 B: 西洋文献文化学 (11票/13.8%)
 C: 思想文化学 (13票/16.3%)
 D: 歴史文化学 (21票/26.3%)
 E: 行動文化学 (14票/17.5%)
 F: 現代文化学 (5票/6.3%)
 G: 無回答 (1票/1.3%)



(Q.09) 以下、Q.09からQ.12で、文学研究科のディプロマポリシーに関してお伺いします。以下の項目についてどの程度達成できたか教えてください。

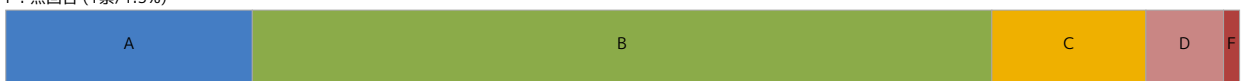
哲学・歴史学・文学・行動科学のそれぞれの専門分野において、高度な知識に基づく研究能力と、高度な専門性を必要とする職業に従事するための能力を身につけている。

- A: 達成できた (9票/11.3%)
 B: ある程度達成できた (46票/57.5%)
 C: どちらとも言えない (19票/23.8%)
 D: あまり達成できなかった (4票/5%)
 E: 達成できなかった (1票/1.3%)
 F: 無回答 (1票/1.3%)



(Q.10) それぞれの専門分野において、原典や一次資料の分析に基づいてオリジナリティを有する研究を進める能力を身につけている。

- A: 達成できた (16票/20%)
 B: ある程度達成できた (48票/60%)
 C: どちらとも言えない (10票/12.5%)
 D: あまり達成できなかった (5票/6.3%)
 E: 達成できなかった (0票/0%)
 F: 無回答 (1票/1.3%)



(Q.11) 専門家としての責任感と倫理性をもって研究を遂行する能力を身につけている。

- A: 達成できた (26票/32.5%)
- B: ある程度達成できた (40票/50%)
- C: どちらとも言えない (11票/13.8%)
- D: あまり達成できなかった (2票/2.5%)
- E: 達成できなかった (0票/0%)
- F: 無回答 (1票/1.3%)



(Q.12) 研究成果を世界に向けて発信するために必要なレベルの語学能力を身につけている。

- A: 達成できた (11票/13.8%)
- B: ある程度達成できた (30票/37.5%)
- C: どちらとも言えない (18票/22.5%)
- D: あまり達成できなかった (15票/18.8%)
- E: 達成できなかった (5票/6.3%)
- F: 無回答 (1票/1.3%)



(Q.13) その他意見・要望がありましたら、ご自由にお書きください。

- 回答無し